



「かかわる力」「つながる力」を育成する中学校家庭科の授業構想  
—生徒の内面にせまる高齢者学習をめざして—

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 宮崎大学教育学部 公開日: 2023-09-15 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 大矢, 英世, 宮本, 由宇, 今村, 愛実, 鍛冶屋, 茜, 伊波, 富久美, 藤本 明弘 メールアドレス: 所属: 宮崎大学, 宮崎大学
URL	<a href="https://doi.org/10.34481/0002000058">https://doi.org/10.34481/0002000058</a>

# 「かかわる力」「つながる力」を育成する 中学校家庭科の授業構想

—生徒の内面にせまる高齢者学習をめざして—

大矢英世<sup>\*1</sup>・宮本由宇<sup>\*2</sup>・今村愛実<sup>\*3</sup>・鍛冶屋茜<sup>\*3</sup>・伊波富久美<sup>\*4</sup>・藤本明弘<sup>\*1</sup>

Junior High School Home Economics Lesson Plan to Develop  
“Ability to Relate” and “Ability to Connect”  
—Aiming to Make Students Study Aging Issues More in Depth—

Hideyo OYA<sup>\*1</sup>, Yu MIYAMOTO<sup>\*2</sup>, Manami IMAMURA<sup>\*3</sup>,  
Akane KAJIYA<sup>\*3</sup>, Fukumi IHA<sup>\*4</sup>, and Akihiro FUJIMOTO<sup>\*1</sup>

## I. 研究の背景と目的

小・中・高を通して、家庭科の学習指導要領では、近年、家族・家庭生活領域の学習内容の増加傾向が顕著である。現行の学習指導要領の小学校家庭科では、「家族や地域の人々との関わり」の学習の中に、幼児または低学年の児童や高齢者など異なる世代の人々との関わりも加えられ、家族や地域の人々との協力の視点からより関わりについて考え、工夫する学習の展開が求められている。中学校では、この小学校の学びにつなげて、家族や地域の人々との協働について取り上げ、高齢者の身体の特徴を扱い、介護など高齢者との関わり方の理解が追加されている。さらに高等学校では、科目の導入として「生涯の生活設計」の項目を新設し、将来を見通し、自分自身や家族を取り巻く地域や社会の課題に目を向け、地域社会に参画し主体的によりよい暮らしを創造していく力を育成すること求められている。本稿では、この新たに加えられた高齢者との関わり方を考える中学校家庭科の授業構想について、2022年度の宮崎大学・附属学校の家庭科共同研究会で重ねてきた検討過程および附属中学校家庭科で実施した高齢者学習の成果と課題を明らかにすることを目的とする。なお、家庭科の教員養成教育に身を置く立場として、題材計画の検討過程を記すことも重視した。家庭科教員をめざす学生には、この題材計画を丁寧に検討していくことの大切さを伝えたい。どのようなテーマについて、どのような方法で授業を進め、その学びが生徒一人一人の生活にどのようにつながり、どう生かされていくことをめざすのか、家庭科ではその検討が欠かせない。生徒の現実生活と向き合うことなく、先行事例を寄せ集めただけの授業や、教科書の内容を教科書に沿って授業するだけでは、生徒の内面に迫ることなく、表面的な理解に終始することは自明のことである。地域によってさらには個人個人で、家族の生活状況や衣食住の在り方には違いがみられる。したがって、家庭科の題材計画は一筋縄ではいかないのである。ここでは、その題材計画の検討過程から示すこととする。

\*1 宮崎大学教育学部 \*2 宮崎大学教育学部附属中学校 \*3 宮崎大学教育学部附属小学校 \*4 宮崎大学教育学部教職大学院

## Ⅱ. 高齢者学習の授業構想検討

今回、新たに取り組んだ中学1年家庭科における高齢者学習について、題材計画作成段階から、混迷を極めた。以下、その検討概要を記す。11月半ばに本格始動するこの高齢者学習の授業内容についての構想案は、6月から何度も作り変えながら検討を重ねた。

### 1. 附属中学校家庭科宮本教諭の高齢者学習の授業のコンセプト

今回取り扱う高齢者学習においても、貫く学習課題としては、「“自分らしく生きる”とはどういうこと??～“自分らしく生きる”ために、私たちは何ができるか～」である。すなわち、高齢者との関わりについて、介助を必要としている高齢者だけでなく、元気な高齢者や、社会の中で活躍している(地域を支えている)高齢者など、広い視点から考えられるようにしたい。いずれ自分たちも高齢者となって、地域を支え、介助などを必要とするときがくるということを認識し、生徒それぞれが自分自身のこれからの人生と重ね合わせながら高齢者の問題に向き合わせたい。

### 2. 高齢者との関わりに関する生徒の現状と育てたい力

宮崎県は、2001年に全国平均より6年早く超高齢社会を迎え、2022年の高齢化率は33.5%で、3人に1人が65歳以上の高齢者となっている。そのような中でも、生徒たちの現状としては、祖父母や曾祖父母と同居している生徒は全体の10分の1程度である。半数以上の生徒が3週間以上祖父母や曾祖父母と話しをしていないと答え、その10分の1は半年以上話していないという状況であった。また、祖父母、曾祖父母との関わり方としては、話をするということ程度の回答であった。尋ねる前から予想はしていたが、生徒たちは、これまでの日常の中で、身近な年長者の生活についてはあまり関心をもつこともなく過ごしてきている。そのような中で、家族を見つめ直し、高齢者など地域の人々と関わり、協働する方法について学び、実践していく力を育てることは、高齢化が進む日本社会を生き抜いていく上で意義深い。

そこで、高齢者の生き方に触れ、高齢者の理解を深めることを通して、家族の中の自分を見つめ直し、これからの生き方を考え、人生の中で直面する問題に主体的に対応できる力を育てたいと考えた。

### 3. 授業開始前の構想段階からで挙げられていた懸念要素と対応策

図1は、初期段階での授業構想の提案内容である。しかし同時に、この流れでは「ワクワクしない」と危惧する思いも語られた。生徒が意欲的に自分ゴトとして取り組む姿が浮かんでこないのである。研究会では、まず、生徒たちのこの学習に向かう動機づけ、生徒がワクワクを感じられるような学習の流れをつくっていきたいという考えを共有した。

本題材学習の開始時に、生徒が自分の生活を見つめる作業を入れることには変わりがないが、「自分らしく生きる」ということを考える延長線上に高齢者の生き方について思いを巡らし、生徒自身もいずれ高齢者になるという自覚のもとに、高齢者の生活問題と向き合う学習の流れ

で設定した。

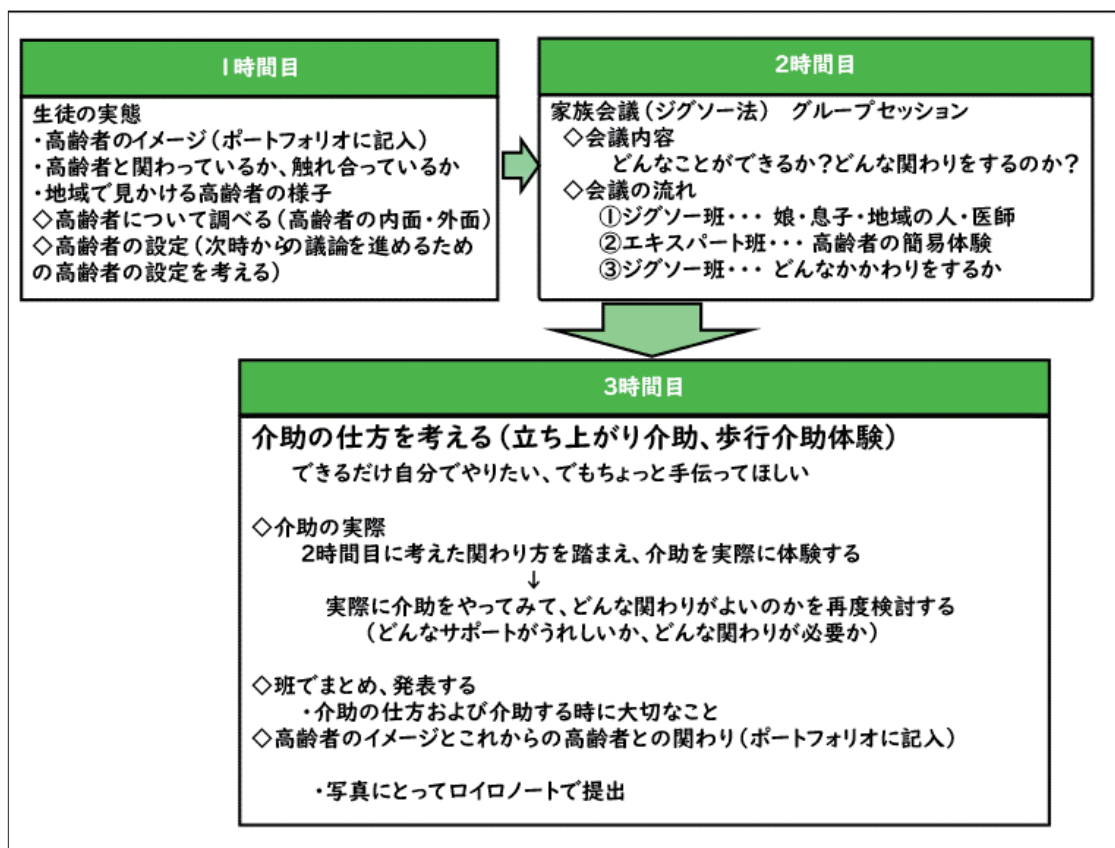


図1 高齢者学習の授業構想のはじまり

高等学校の家庭基礎ならびに家庭総合の学習指導要領では、学年の最初に自分自身の人生を見通す生活設計(人生設計)の学習に取り組むことが示されているが、本実践では、この高齢者学習の初期段階で、生徒自身の人生設計を立てさせる作業を入れることにした。ここには、生徒自身のこれからの人生とつなげ、また、身近な高齢者にインタビューをするという活動を通して、生徒自身が自分ゴトとして捉え、高齢者学習と向き合ってほしい、ワクワクを感じながら、高齢者への理解を深めてほしいという願いが込められている。表1は、11月から12月にかけて実施した授業の指導計画である。

本実践については、生徒には、事前課題を課している。その1つが、生徒一人一人が身近な高齢者にインタビューをしてくることである。この課題は、夏休みの課題とした。部活動や他教科の課題もある中で、短期の課題では取り組むのが厳しい生徒もいるのではないかと想定したためである。高齢者へのインタビューの主な内容は、①一日の過ごし方、②どんなことを考えながら過ごしているのか、③楽しみ、喜び、困っていること、不安なこと、④食事について(若いときとの変化、気を付けていること)、⑤地域のために行っていること、⑥今の中学生に伝えたいことなどである。2つ目の課題は、生徒自身の人生設計表を作成させている。いずれ自分も高齢者になるという視点を視覚的に感じることができるようさせたい。さらに、高齢者と自分自身の人生をつなげて考えるきっかけをつくるために、“自分らしいとはどういうこ

とか” “自分らしい人生とはどういうことか” について事前にXチャート(図3)への記入を課した。以上の事前課題に合わせて、高齢者に関する考え方等について図4のポートフォリオ(学習前)に記入させている。

表1：高齢者学習の宮本実践指導計画(2022年11月～12月実施)

時	主な学習活動及び内容	本時の評価基準 【評価の方法】
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ “人生設計”と“自分らしさ”について語り合う。</li> <li>○ 高齢者に対するイメージと実際の高齢者とのギャップについて考えた上で、インタビューしてきた高齢者について語り合う。</li> <li>○ 高齢者の心身の特徴について考え、まとめる。</li> </ul>	<p>高齢者の心身の特徴について、インタビューした内容で語り合ったものをもとにまとめることができる。</p> <p>【記述の確認】</p>
2 ・ 3	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 高齢者にとっての“自分らしさ”について考える。</li> <li>○ インタビューした高齢者が抱えている課題について考え、家庭内で解決できること、家庭内では解決できないことに分類する。</li> <li>○ 4つのグループ(活躍している高齢者、見守りが必要な高齢者、介助の必要な高齢者、介護の必要な高齢者)に分かれ、設定した課題から、今の自分に何ができるか考えたり、調べたりして、資料を作成する。</li> </ul>	<p>インタビューしてきた高齢者の課題を発見し、SDGsの視点と絡めながら、“今の自分に何ができるか”を考え、資料をつくることができる。</p> <p>【記述の確認】</p>
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ “私たちは何ができるか”について、班で発表を行う</li> <li>○ “私たちは何ができるか”についてまとめる。 *グループ発表で出てきたことを全体で共有する。 *介助の必要な高齢者に対する関わり方が生徒から出てこない場合、介助体験をする。</li> <li>○ “見えるとか 見えないとか”の絵本を聴く。</li> <li>○ “自分らしく生きる”とはどういうことか考える。 *何を大切にしながら高齢者と関わっていったり、自分自身が生活していったりしていけばよいか考える。</li> <li>○ 学習を通して学んだことについてまとめる。</li> </ul>	<p>高齢者が抱える課題について、家庭内でできること、家庭内ではできない場合は、団結して行動を起こしていくことが大切であることを理解し、“今の自分にできること”を考え、これからの自分の生き方につなげることができる。</p> <p>【記述の確認】</p>

#### 4. 自分らしさと向き合う授業実践

図2は、生徒の人生設計例である。中学生にとって、先の人生を見通すことは非常に難しく、表面的な記述に終始する傾向が見られた

家庭生活とのつながりをもつことができるように、人生設計では、今の時点での結婚や子どもを持つことへの思いやその時期、親との関わりなどについても不足分は追加記入させた。



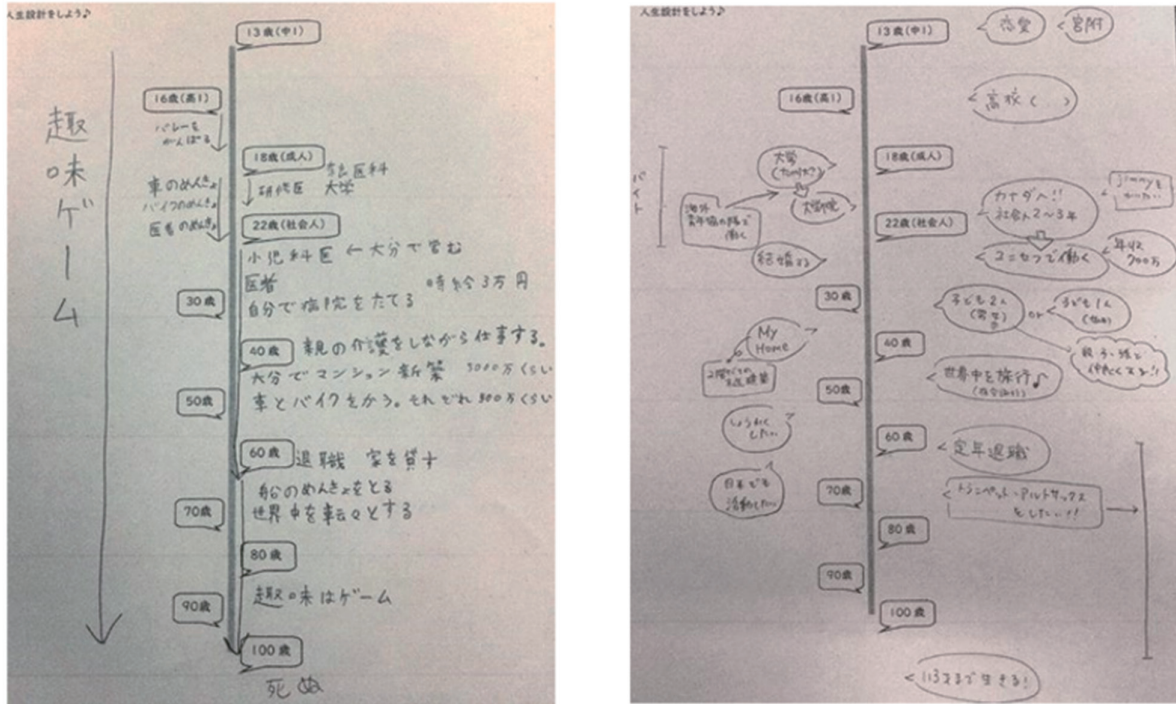


図2：生徒の描いた自分自身の人生設計例

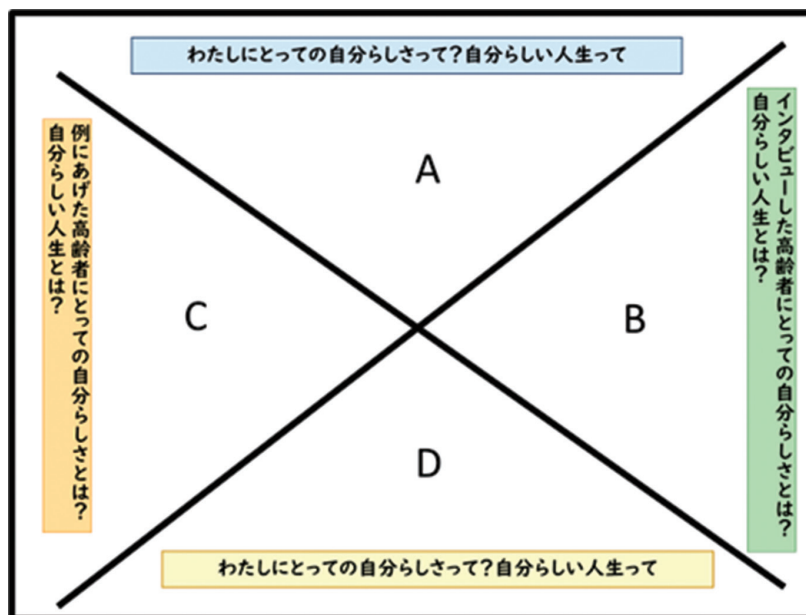


図3：Xチャート“自分らしい人生って”

表2：1時間目の学習指導過程

学習内容及び学習活動	指導上の留意点
<p>1 考えてきた“人生設計”と“自分らしさ”について語り合う。</p> <p>2 学習テーマと本時の学習内容を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>“自分らしく生きる”とはどういうこと？ ～“自分らしく生きる”ために私たちは何ができるか～</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>高齢者って何だろう？ 歳をとるってどういうことか考えよう。</p> </div> <p>3 高齢者について語り合う。 ・高齢者についてもっているイメージについて共有する ・インタビューした高齢者について語る ・高齢者の定義とのギャップについて考える。【個人→班→全体】</p> <p>4 高齢者の心身の特徴から、“歳をとる”とはどういうことか考える。【個人→班→全体】</p> <p>5 高齢者にとって、“自分らしさ”“自分らしい生き方”とはどういうことかについて、高齢者の例の一部を知る。</p> <p>6 本日の学びについてまとめ、次時は、課題から、“私たちに何ができるか”について考えていくことを伝える。</p>	<p>○ 自分の人生設計を事前課題として行わせる。人生設計は、結婚、子育て、親との関わりについても記入させる</p> <p>○ “自分らしいとはどういうことか” “自分らしい人生とはどういうことか”について、事前にXチャートに記入させておく。</p> <p>○ 自分らしい生き方について“人生設計”や X チャートを使いながら、グループ内で語り合う。</p> <p>○ “人生設計”をするにあたって、特にイメージすることが難しかった年代を問う。</p> <p>○ 事前の宿題でポートフォリオに書いた“高齢者”だと言える年齢を、“人生設計”上に“印”を付けさせる。</p> <p>○ 思考の変化を視覚化し、ギャップを明確にするために、事前記入の高齢者に対するイメージをスライドに書き出し、高齢者に対するイメージについて全体で共有する。</p> <p>○ 自分たちが高齢者に抱いているイメージの状況で、“人生設計”で考えたことができるのか問う。</p> <p>○ “人生設計”で高齢者になると考える年齢やインタビューした高齢者の年齢を“人生設計”上に“印”を付けさせる。</p> <p>○ インタビューで“高齢者”と書かれていたことに対する反応を聞いたりする場を設ける。</p> <p>○ インタビューの高齢者について、グループで語らせる。</p> <p>○ ギャップが生まれる理由について考え、高齢者を75歳以上に見直す動きが出てきていることを押さえる。</p> <p>○ インタビューしてきた高齢者やグループで共有した高齢者の話などを参考に、高齢者の心身の特徴について考えるように促す。</p> <p>○ 高齢者の心身の特徴について「よい面」・「不自由な面」の両方から考えるように促す。</p> <p>○ 次時で、高齢者にとって“自分らしさ”“自分らしい生き方”について考えるために、高齢者の例の一部をあげて、意欲を高める場を設ける。</p> <p>○ 本時の振り返りを、本日の課題として書くように伝える。</p> <p>○ ポートフォリオとして学びを蓄積するために写真を撮り、データをロイロの提出箱に後日提出するように指示をする。</p> <p>○ 次時は、日々の過ごし方や地域との関わり、食事などインタビューをしてきた高齢者が抱えている課題について考え、家庭内でできることや家庭内ではできないことに分類した上で、自分たちに何ができるのかを考えていくことを伝える。</p>



図4：ポートフォリオ

事前に生徒が挙げた高齢者のイメージの主なものを図5に示す。

<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 激しい運動ができない、全ての行動が遅い、動くのが大変</li> <li>▶ 声大きい、耳が遠い</li> <li>▶ 腰が曲がっている、身長が低い、杖を使う</li> <li>▶ 体が不自由になっていく、できないことが増えている</li> <li>▶ 病気になりやすい(入退院を繰り返す)、認知症(精神疾患)</li> <li>▶ 白髪、しわ</li> <li>▶ 歯がない、硬いものが食べられない</li> <li>▶ 病気になる人と元気な人の差が激しい</li> <li>▶ やさしい、穏やか、明るい、元気、ニコニコ、気遣い上手</li> <li>▶ 話が長い、話すのが遅い、知らない人に話しかける、昔のことをよく話す、方言を使う</li> <li>▶ 疲れてそう、少し怖い、面倒くさい</li> <li>▶ 知識や経験が豊富</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 記憶力の低下、考え方の偏り</li> <li>▶ ご飯をつくってくれる(料理が上手)、食べ物をくれる</li> <li>▶ 早起き、公園で散歩している、楽しんでいる</li> <li>▶ 家でのんびりとくつろいで暮らしている</li> <li>▶ ボケーっとしている</li> <li>▶ 仕事をしていないが、畑仕事をしている</li> <li>▶ 年金暮らし(お金持ち、借金がない)</li> <li>▶ ひとりでの生活は難しい</li> <li>▶ みんなに助けられている(援助・介護が必要、ディサービス)</li> <li>▶ 小さい子供と同じような扱いをする</li> <li>▶ バスをよく利用</li> <li>▶ 夫婦仲がよい</li> </ul>
---	--

図5：事前に挙げられた高齢者のイメージの主なもの



4時間設定で計画した中学1年の“自分らしい生き方”につなげる高齢者学習では、①事前に準備した生徒自身の「人生設計」および高齢者へのインタビュー内容の交流、②高齢者が抱える課題の考察、③一人暮らし、夫婦暮らし、2～3世代家族の高齢者の暮らしと今の自分に何ができるかについて資料作りとプレゼン、④絵本「見えるとか 見えないとか」の読解、⑤簡単な高齢者疑似体験(黄色フィルムを通した見にくさ、軍手をはめた作業のしにくさ)や立ち上がりの介助体験、⑥自分がどのような高齢者になりたいかを考察し、図4の学習後のポートフォリオをまとめるという予定で組んでいた。

しかし、生徒の学びとしてももう少し深めたかったため、さらに冬休みから春休みにかけて、授業を通して考えた「今の自分にできること」を実践するという課題を出すことにしている。この課題が提出されるのは、学年をまたいで2023年4月であり、クラス替えもある中で、最終的なまとめの授業を行い、冬休みから春休みにかけてそれぞれが取り組んだ「今わたしたちにできることの実践」の交流の場を作っている。生徒の取り組みとしては、「祖父母への電話」が多くみられた。そこで、授業の中でインターネットの明治安田生命グループのMY介護の広場 耳の体験コーナー「老人性難聴」になった、お年寄りの聞こえ方を体験してみよう！を実際に聞いて、老人性難聴の聞こえ方を体験する時間も取っている。

表3：2・3時間目の学習指導過程

学習内容及び学習活動	指導上の留意点
1 学習テーマと本時学習内容を確認	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;">           高齢者にとって“自分らしく生きる”とはどういうことだろうか？            課題から今の自分に何ができるかについて考え、発表資料をつくろう。         </div>	
2 高齢者にとっての“自分らしい生き方”について、高齢者の例やインタビューした高齢者から考える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「高齢者の自分らしく生きる生き方」について考える。</li> <li>○自分とインタビューした高齢者のことをつなげて考えるために、Xチャートに記入させる。</li> </ul>
3 インタビューしてきた高齢者が抱えている課題について考える。 ・高齢者の暮らし方を確認する。 ・自分の家庭内で解決できること、家庭内では解決できないことに分類する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○インタビューした高齢者の暮らし方(一人暮らし、夫婦暮らし、2～3世代家族)について意識させる場を設ける。</li> <li>○自分たちは何ができるのかを考えるために、日々の過ごし方や心身面、地域との関わり、食事などからインタビューしてきた高齢者が抱えている課題について考えるよう促す。</li> <li>○OSDGsの視点カードも用いて、課題を探らせる。</li> </ul>
4 設定した課題から、今の自分に何ができるかについて考えたり、調べたりして、資料を作成する。 ・一人暮らし、夫婦暮らし、2～3世代暮らしの3つのグループに分ける調べ学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>○“食事や地域の活動に対する思いや課題や展望”“日々の暮らしへの想い”“私に伝えたいこと”“中学生に伝えたいこと”などのインタビュー内容について参考にするように促す。</li> <li>○次時(4時間目)に発表を一人一人するので、文字の大きさ等伝わりやすさを意識した資料を準備するように伝える。</li> <li>○プレゼンは、インタビュー内容等も含めて構成させる</li> </ul>
5 本日の学びについてまとめ、4時間目、本時決めた課題から、“私たちに何ができるか”について発表することを伝える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ポートフォリオとして学びを蓄積するために、写真に撮り、データをロイロ上に貯めておくように指示をする。</li> </ul>

表4：4時間目の学習指導過程

学習内容及び学習活動	指導上の留意点
1 これまでの活動を振り返る。 2 学習テーマと本時学習内容を確認	○ これまでの学習を振り返った上で学習に対する取り組みについて称賛し、本時の学習への意欲を高める。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">             どのような高齢者になりたいか、どういう歳の取り方をしたいかを考えよう           </div>	
3 班内発表を行う。(4人班) ・時間：1人2分 ・質疑応答：1分 ・評価：1分	○ 前時の班ではなく、異なる同士の4人班とする。 ○ ロイコの生徒間通信機能を使わせて、発表させる。 ○ 理解を深めるために、質疑応答や評価の時間を設定 ○ キャリア形成のために“伝わる”ことを意識した発表をするように促す。 ○ 他の人の“今の自分に何ができるか”についての感想や考えを書き、数人に発表させる。
4 “見えるとか 見えないとか”の絵本を聴いたり、体験したりする。	○ 自分とは異なる存在や境遇でも、視点を変えると見方が変わっていくことを理解するために、ヨシタケシンスケさんの絵本を聴く。 ○ 視点を変えて高齢者を捉えるために、タブレットに黄色フィルムを貼り、10円玉、100円玉硬貨の区別のつきにくさを体験する場や立ち上がりの介助を体験する。 ○ “今の自分に何ができるのか”ということのをこれからの生活につなげるために、視点を変えたり、相手の立場になったりすることで、見方が変わることを再度伝える。
5 どのような高齢者が“自分らしく生きる”ことになるのか、自分はどのような高齢者になりたいのか考える。	○ どのような高齢者が“自分らしく生きる”ことになるのか考えやすくするために、自分が高齢者になったときどのような暮らし方をしたいか設定する場を設ける。 ○ 自分がどのような高齢者になりたいのか、どういう歳の取り方をしたいのか、どういう暮らし方をしたいのか考え、発表する場を設定する。
6 授業を通して、改めて“自分らしく生きる”とはどういうことかについて考え、まとめる。	○ 自分がどのように生きていくかにつなげるために、2度目の“自分らしさ”“自分らしく生きるとはどういうことか”について、Xチャートを書く。
7 ポートフォリオに本時の学びやこれまでの学習を通して学んだこと、高齢者のイメージなどについてまとめる課題について知る。	○ 本時の学びを言語化するために、家庭科のどの見方考え方から学びがあったかを選び、情報生産カードにまとめてくるように伝える。 ○ ポートフォリオとして学びを蓄積するために、写真を撮り、これまで蓄積したデータをポートフォリオに貼り付け、ロイコの提出先へ提出するように指示をする。 ○ 思考の変化を視覚化するために、これまでの学習を通して学んだことや高齢者に対するイメージをポートフォリオへ記入し、次の授業で提出するように促す。

最終的に、再度、図4のポートフォリオ用紙【学習後】の項目に、「発表を聞いて、自分の実践を改善したり、今後の関わりにかしたりできること」「実践する前にもっと学習しておきたかったこと」を加えた【“今の私たちにできること”実践後】の用紙を用意し、記入させた。

### Ⅲ 研究の成果と課題

本稿で取り上げた宮本実践は、中学1年生に生徒自身の人生設計を描かせ、自分ゴトという新たな挑戦から始まり生徒の状況による授業展開の微調整の繰り返しによりつくられた熱意溢れるものであった。ここでは、生徒の授業における反応や記述物から、成果と課題を考察する。

#### 1. 人生設計を立てることから始めたこと

この宮本実践の大きな特徴の1つが、自分のこれからの人生と重ね合わせて高齢者の抱える問題と向き合うことができるように、まず、生徒自身の人生設計をたてることから始めたことである。これは事前課題としたが、中学1年生には将来の自分自身に思いを巡らせることはかなり難しく、図2に例示したものよりも記入量の少ない人生設計表も散見された。しかし、そこから再度、生徒に“結婚するかしないか”“子供をもつかもたないか”“子供は何人くらいか”“結婚や、子供をもつのは自分がいくつのときか”“親との関わり”は・・・などの視点も入れて考えるように強調することで、その延長線上に高齢者としての生活があることを視覚的にも印象づけることができた。学習前ポートフォリオの記述では年齢を挙げていた生徒の42.3%が60歳以上の人を高齢者と考えていた。そのため、自分の人生設計表にその高齢期の境と考えるラインを引かせることにより、イメージと現実とのギャップを掴ませる活動は効果的であった。しかし、どこまで自分の人生と重ねあわせて考えながら今回取り組んだ高齢者の問題に向き合うことができたのかは、未知数である。なお、生徒に人生設計を立てさせるときは、人生のライフステージごとのライフイベントを考える視点を丁寧に扱う段階を経ることで、より充実した設計にすることができると思う。

#### 2. 高齢者へのインタビューについて

高齢者を理解するために実施したインタビューの対象者は、ほとんどが祖父母であった。インタビュー項目の中に、「今の中学生に伝えたいこと」という項目を入れていたが、身近な孫への願いが語られていた。本来の目的とは異なるが、生徒自身が祖父母の願いを直接聞くという機会にはなった。調査に際し、インタビュー対象者への説明不足があったと推察する。また、ポートフォリオ(図4)「HWのインタビューを通して思ったこと」の項目への記述は、“思ったより”といった表現が多くみられ、これまで同居している場合ですら、祖父母とじっくり話をする機会もなく、過ごしてきている状況が見えてきた。そのため、祖父母について関心を持ち、知ろうとする姿勢を生み出すという点での成果は得られたと言えよう。また、多くは「いろいろなことを考えているんだなと思った」「体に気を付けている」といったような些細なことしか書かれていなかったが、その中で「家事いっさいを祖母がやってくれている」現実をこれまで何も感じずに過ごしてきたことへの気づき、「祖父母にとって危ない生活環境をそのま



まにしていた」ことへの気づきなども見られた。生徒にとっての課題をこなすためだけの表面的な気づきであったのか、深く心に受けとめた気づきであったのかは、長いスパンでの持続的な行動変容が見られるかどうかによってはじめて検証できると考える。

### 3. 今の自分たちに何ができるのかの資料作りと発表について

一人一人が資料をロイロノートで作成し、4人班内でのプレゼンを行っている。生徒の取り組み方には差が見られたが、互いの発表を聞き合うなかでの学びが感じられる。生徒のポートフォリオの記述の中にも、「楽しく取り組むことができた」という前向きな感想が見られた。生徒たちの取り組みとしては、「電話をする」「会いに行く」「話をする」が大部分を占めており、他に「一緒に運動する」「手紙を書く」「地域のゴミの出し方への対応」などが見られた。一部には、家族を巻き込んで、見守りカメラの設置や家庭内の危険個所を見直す活動も生み出されている。図6は丁寧にまとめた生徒Aの資料である。

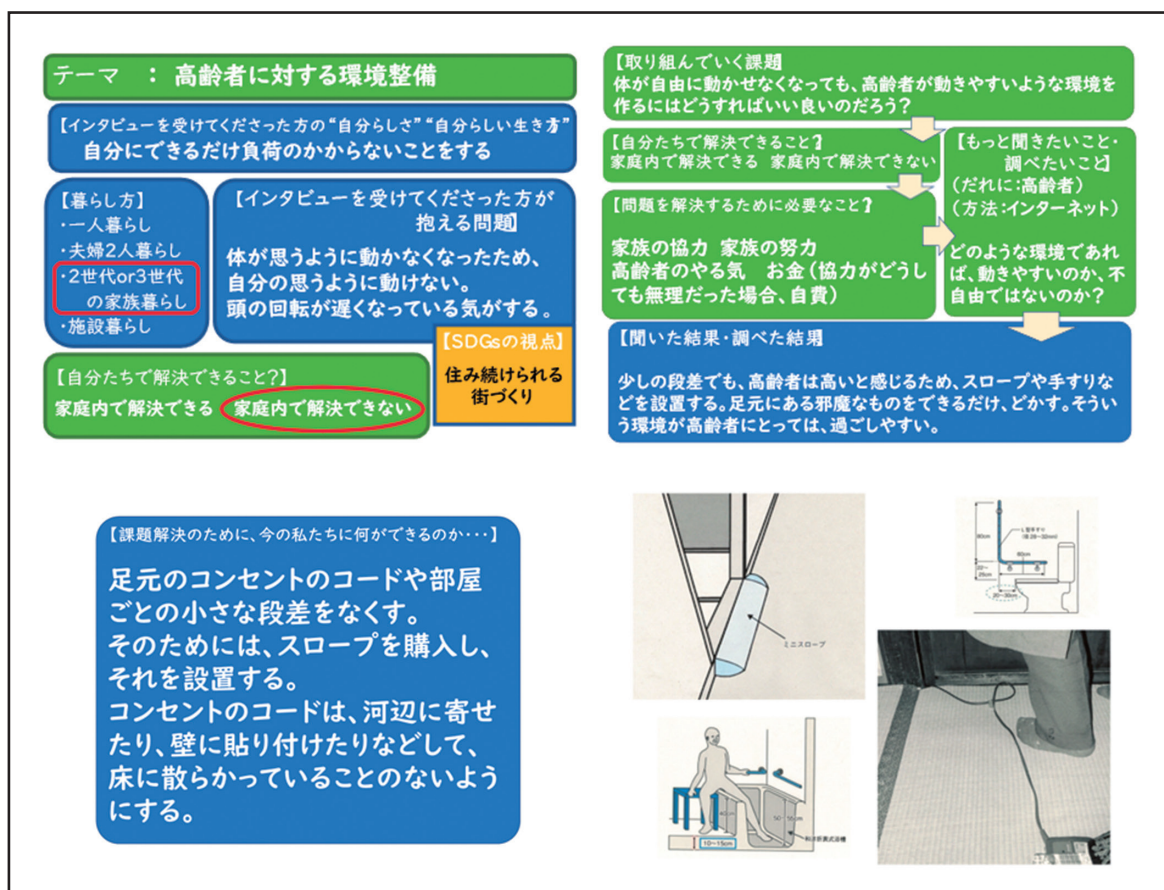


図6：生徒Aの発表資料より



#### 4. 絵本『見えるとか 見えないとか』と簡易高齢者疑似体験の取り入れ方

今回の宮本実践では、当初から、どの段階で絵本の紹介する場面をつくるのが検討課題の1つとなっていた。今回は、生徒たち自身が課題解決に向けた調べ学習や意見交流を終えた後で、取り上げさらに簡単な高齢者疑似体験を行う流れにした。まず、高齢者の心身の特徴について学び、その知識をもとに「今自分たちにできることを考える」という学習展開も検討したが、最後に扱った今回の流れの方が、先入観を持たずに高齢者と向き合うことができたように考える。今後も、できる限り知識を与えるという授業展開で生徒の思考を狭めることのないように、思考を引き出す学習展開をつくっていきたい。

#### 5. 年度をまたいだ学習展開について

4時間設定での指導計画であったが、生徒自身の家庭での実践部分が伴ってこそその学びであるため、冬休みから春休みにかけて、時間のある時に実践し、実践報告書を作成することを課しことにした。そのため2年生となり、クラス替えもあった中で、違うメンバーでの最終的な実践交流となったが、かえってさまざまな実践にふれる機会を増やし、学びを深めることにもつながったと考える。図7は生徒Aの実践報告書である。さらに当初の予定にはなかった【今の私たちにできること実践後】のポートフォリオが加わることとなった。生徒は、長期にわたったこの取り組みを通して、らせん状に思考を重ねていくことになった。高齢者のイメージについての記述量も増え、「どのような高齢者になりたいか」についても明確化されつつある。一緒に生活している場合でも、高齢者にとっての不便さや体のしんどさに気づかず過ごしていた生徒も多数見られた。

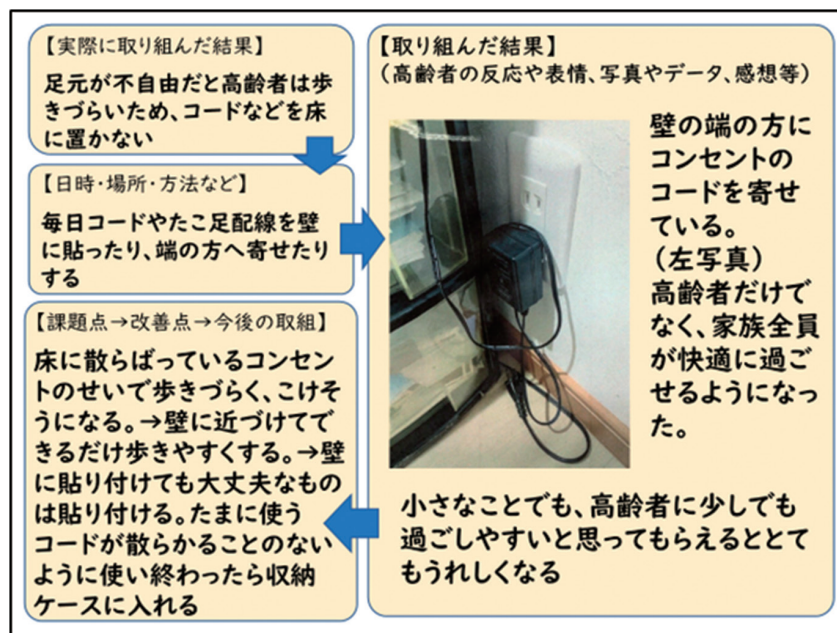


図7：生徒Aの実践報告書

## 6. 今後の課題と展望

本実践は、授業を進めながら軌道修正を繰り返し、取り組んだものである。これまで生徒たちの多くが、積極的な交流をしてこなかった祖父母（曾祖父母）と触れ合う機会を作り、それまで気づかずにいた祖父母の心身の状態にも目を向けることができた点は非常に意義深い。しかし、生徒たちの気づきの表現は単調であり、同じような意見が数多く見られた。高齢者の課題解決に向けた調査をし、他の人が気づかないような発想を生み出すほどの取り組みは、期待したほどには見られなかった。授業では、生徒の様子から必要と判断し、さらに、高齢者の聞こえ方を比較する音声の視聴を追加し取り入れている。絶妙のタイミングで生徒たちに投げかけ、聞き取りにくい状態の音声が衝撃的で生徒たちの感想の中で触れている生徒も多い。最後のポートフォリオに追加された記述項目の【実践する前にもっと学習しておきたかったこと】にこの「高齢者の聞こえ方」が多くあげられていた。

しかし一方でこのことから、与えられる情報をもとに考えることに慣れてしまっている生徒の現状が見えてくる。この聞こえ方の違いを示す資料についても、高齢者の課題解決に向けて生徒自身が調査していく過程で見つけ、そのことをクラスで交流していけるような探究の姿勢ができてこそ、学びの定着がなされていくのではないだろうか。今回の取り組みは、小さな気づきを大切にした初めの一步である。授業者は、生徒の取り組みに寄り添い、次の学習活動につながる種を蒔きながら、新たな気づきを導くための丁寧な声かけに徹していた。その成果として、この課題により、一部には、家族を巻き込んだ形で、祖父母の課題解決に向けた家庭での新たな取組みも生まれている。ここから生徒がさらに学びを深め、持続的な実践につながる深みのある授業展開へと発展していけるように、今後も授業検討を続けていきたいと考える。

## IV. 参考文献

- 1) 文部科学省. 小学校学習指導要領 家庭編(平成 30 年告示). 東洋館. 2018
- 2) 文部科学省. 中学校学習指導要領解説(平成 29 年告示)技術・家庭編. 開隆堂出版. 2018
- 3) 文部科学省. 高等学校学習指導要領解説 家庭編(平成 30 年度版). 教育図書. 2018
- 4) 二橋拓哉. 中学校家庭科における高齢者学習の変遷と今後の課題—中学校家庭科学習指導要領解説と中学校家庭科教科書の記述分析から—. 日本家庭科教育学会誌. 61(4). 2019. 215-224
- 5) 二橋拓哉. 山崎瑠璃子. 板詰悦子. 大木真理奈. 結城遥. 中学校家庭科高齢者学習の実践—問題解決学習を手法として—. 日本家庭科教育学会誌. 63(4). 2021. 203-2014
- 6) 二橋拓哉. 山崎瑠璃子. 中学校家庭科における高齢者学習の実践—「多様な高齢者の理解」「高齢者との協力・協働」を視点として—. 日本家庭科教育学会誌. 63(3). 2021. 151-156